

レポート
第8弾

「那須町音訳ボランティア サークル泉」の巻



サークル泉は、那須町立図書館で、町内在住の視覚に障がいをお持ちの方を対象に「議会だより」、「町広報紙」、「社協だより」などを音訳しているボランティアサークルです。また、「いずみの玉手箱」としてサークルメンバーが個々に選んだ物語などを音訳して毎月、音訳版を作成し希望者へ届けています。東日本大震災の時も休止することなく音訳版を送り続けました。



文章はもとよりアルファベット注釈や略語、写真を言葉で伝えるのに苦労しているとのこと。

編集ページの割り振りを担当し、自宅で音訳データを作る。各自持ち寄り編集。



音訳を専用の再生機で楽しむ伊藤良治さん



皆さんの周りに視覚の障がいや文字が見えにくくお困りの方がおりましたら、那須町音訳ボランティアサークル泉の存在をお伝えください。



代表者の大平さんから説明を受ける。

課題

- 個人情報保護の観点から目の不自由な方の把握ができずに利用者を増やせない。
- 現在使用の機材、消耗品の購入に際しては民間の支援があったが、その機材が使用できなくなった時に更新できるか不安。

ご希望の書籍の音訳にも、対応しています。那須町内にお住いの方で、視覚に障がいをお持ちの方が対象です。

ご利用をご希望の方は、お気軽にご連絡ください。

お問い合わせは、那須町立図書館
電話 0287-72-5840

見聞後記

障がいを持たれた方も含め誰もが見やすい紙面づくりが今後重要になる。音訳利用者を増やすためには、実際にどんな音訳がなされているのか、多くの方に聴いてもらうことが課題。議会だよりにおいても音訳QRコードを付けるなど、障がいを持たれている方はもとより、その家族や一般の方にも聴いてもらえるよう、周知の在り方、仕組みの創出を検討するべきと感じた。